

地域社会・家庭における人権教育と啓発

市では、全区・自治会に人権教育推進員を配置し、様々な人権について地域住民が積極的、主体的に学習、研修できるよう支援体制の整備を図っています。

4月当初には、新しく各地区の役職に就かれた区・自治会長、支・分館長、人権教育推進員による「三役合同会議」を市内3カ所で開催し、1年間の人権教育研修について協議、情報共有をしています。5月には区・自治会長、支・分館長、人権教育推進員、正副公民館長、小中学校長を対象にした「人権教育研修会指導者研修講座Ⅰ」、「研修講座Ⅱ」を開催し、地域のリーダーとして人権問題を学び、人権意識の高揚につながるようにしています。

○研修講座Ⅰ

5月8日（水）

戸倉創造館 参加者 165名

講演会「人が大切にされる地域づくりをめざして～自分をみつめ、広げることから～」

講師 中信教育事務所

指導主事 松井 秀文さん



▲R1.5.8 人権教育研修会指導者研修講座Ⅰ
(戸倉創造館)

○研修講座Ⅱ（施設研修）

5月18日（土）

研修場所

- ・千曲市人権ふれあいセンター
- ・長野県人権啓発センター

(参加者 45名)



▲R1.5.18 人権教育研修会指導者研修講座Ⅱ
(長野県人権啓発センター)

市内各区・自治会では人権教育推進員を中心に、「地区人権教育研修会」を実施しています。世帯数により2回実施する地区もあり、令和元年度の開催回数は延べ75回、参加者総数は2,507人となりました。

各区・自治会ごとに、講演会、DVD視聴、施設見学など工夫をこらした研修会が開催されました。

(28～30 ページ 令和元年度 地区人権教育研修会の実施状況参照)

人の温かさ

風邪をひく程度で健康には自信があった私だが、突然病気が判明し、手術することになった。

医者に行き病気であることが判明したので、すぐに妻に電話をした。妻は昼食の用意をしている最中であつたが、料理が手につかないほど心配してくれた。

息子に電話をすると、心配して赴任先から帰省してくれた。娘に話すと、涙を流して心配してくれた。

「手術すればよくなるから大丈夫だから」と話しても家族は心配でたまらなつたようである。入院も手術も初めてな私にとって、こうして家族が心配してくれることで元気をもつたような気がする。

手術が無事終わり家族は一安心したようである。

入院は5日間であつたが、その間、新型コロナウイルスで面会は一切出来なかつたので、家族間メールを使ってやり取りした。私は手術後の回復状況や三食の様子などを送ると、メールが返ってくる。お互いに共有しながら、お互いの思っていることを書き込んだ。お互いの気持ちを理解し合えた。この5日間は家族の絆を深める機会となつた。

退院してさらに安心したようである。私もホッとした。

普段は何気なく生活しているが、いざというときの家族のありがたさを感じた。

また、入院や手術でお世話になつた医師や看護師さんは、患者の身になって考え接してくれて、不安な気持ちでいる私を和らげてくれた。本当にありがたいと思つた。

今回の入院を通して、人の温かさがいかに大事であるかが分かつた。相手の身になって考え行動のできる更なる自分をめざしていきたい。

(人権教育指導員 下寄正幸)